

幕張新都心は2010年度をもって事業期間が終了、業務機能の集積は低迷が続くものの、居住・教育環境や商業機能などは一段と充実

1972年度に事業開始された幕張新都心という壮大な街づくりは、38年間の長い事業期間を経て10年度で終了する。11年度以降は、昨年度新たに策定された千葉県の総合計画「輝け！ちば元気プラン」における「国際交流機能・中枢的業務機能などの諸機能が集積した、経済、文化などの分野で国内外に魅力を発信する交流拠点都市」として新スタートを切ることになる。

- 83年に現在の千葉県経済発展の原動力となる「千葉県新産業三角構想」が策定され、幕張新都心はかずさアカデミアパーク、成田国際空港都市構想とともに、3つの基幹プロジェクトに位置づけられた。

幕張新都心は、「職・住・学・遊」の4つのコンセプトのもとで複合機能を集積した街づくりが推進されてきた。

この中で、「職」については、89年の幕張メッセオープンを皮切りに、幕張テクノガーデン（90年）、ワールドビジネスガーデン（91年）などを始め、大手企業やベンチャー企業、外資系企業等が相次いで進出してきて、順調なスタートを切った。しかし、90年代入り後のバブル崩壊とその後の経済の長期停滞もあって、就業人口は10年1月末で37千人と当初計画（150千人）の25%にとどまっている。

ここ数年も、世界的ブランド力を持つBMWジャパンの都内への本社移転や、幕張メッセの代表的イベントであった東京モーターショーが東京ビッグサイトへの開催場所の変更が発表されるなど、コンベンションやイベント数は伸び悩んでいる。

残りの「住・学・遊」については順調に発展している。幕張ベイタウンを中心に10年1月末の常住人口が23千人と当初計画（26千人）の9割を達成。14年には、高さ119mの超高層マンション（高層棟：35階建198戸、低層棟：8階建110戸）が竣工予定である。また文教地区においても、放送大学、神田外語大学、アジア経済研究所等の進出に続いて、09年には千葉県初のインターナショナルスクールが開校するなど、特徴的で質の高い文教学園エリアを形成し、充実度を高めている。

特に「遊」については、千葉マリスタジアム（90年開場）をはじめ、00年には三井アウトレットパーク幕張の開業、外資系のコストコホールセールが進出など、集客力のあるレジャー施設や大型商業施設の相次ぐ進出で賑わいを創出してきた。最近では、イオンが拡大地区に大型複合商業施設を建設し13年3月に開業することを発表。また、千葉マリスタジアムの「QVCマリスタジアム」命名や、(株)QVCジャパンの新社屋建設計画が発表されるなど、明るい話題も出てきており、新たな商業都市づくりが期待される。

今後については、自治体財政が厳しく、新たに財政資金を投入して事業を進めるのは難しい。新たに策定された県の総合計画に基づいて、民間企業が積極的に進出しやすいような環境づくりを含め、関係する行政機関と民間が知恵を出し合い緊密に連携して、会議・コンベンション・イベント等の積極的誘致活動や、企業進出に向けた新たな工夫・働きかけ等を実施していくことが必要である。

(井上)